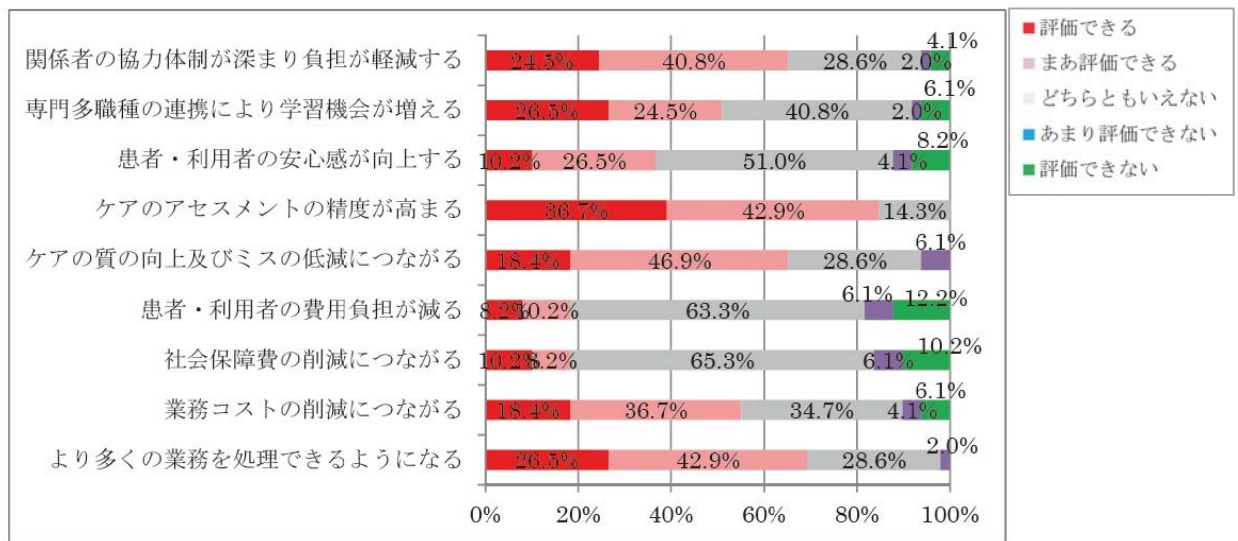


システムの利用効果（居宅介護支援事業所）〔図 13〕



- 県内の I C T を活用した情報の共有として、豊明市の取組が注目されている。ここでは、住民の医療・福祉（介護）・健康情報を電子的に管理し、関係機関で共有するための「在宅医療・福祉統合ネットワーク『いきいき笑顔ネットワーク』」が構築され、関係機関の連携促進に効果をあげている（図 14）。

この「いきいき笑顔ネットワーク」には、愛知県医師会社会福祉専門委員会の指導のもと、東名古屋豊明市医師会、愛豊歯科医師会豊明支部、日進東郷豊明薬剤師会、豊明市、藤田保健衛生大学病院、名古屋大学医学部附属病院脳卒中医療管理センター、地域包括支援センター、在宅医療に関わる事業者等が参加している。

また、ネットワークの情報共有の要として「電子@連絡帳システム」(*)が使用されている。

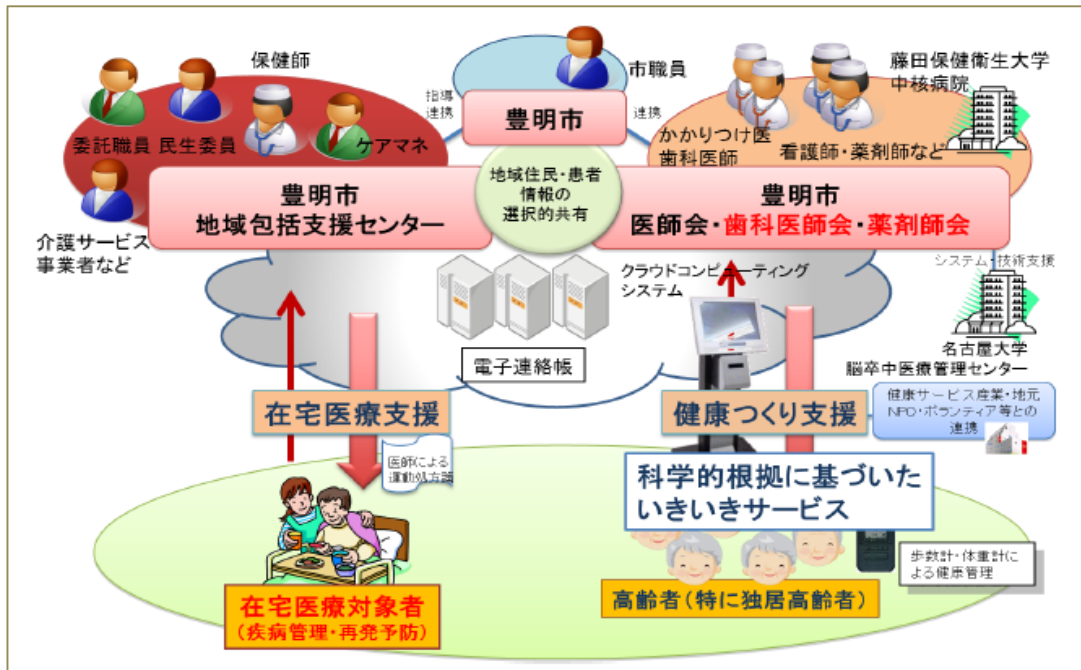
* 携帯、スマートフォン、P C により、患者情報や、誰が・いつ・何を・どうしたか、などを関係者が共有できるシステム。

- 「電子@連絡帳システム」は、携帯電話やメールが扱える程度の能力や知識があればすべてを操作できるように配慮されているなどの長所があり、長久手市、豊橋市、津島市においても、このシステムを使用した同様の取組が行われている。さらに、他の地域でも取組の実施に向けた検討が行われるなど、広がりを見せており、有効な取組と思われる。

- 今後は、県内各地域において、このような I C T の利活用が望まれるが、その導入にあたっては、住民サービスを担う市区町村が、公益を担う地区医

師会とともに、情報システムを通じて関係者の連携を促進させることについて働きかけることが重要である。その際には、ICTを活用するためのインフラの整備や個人情報を守るセキュリティの構築も必要である。

いきいき笑顔ネットワークのイメージ [図 14]



豊明市 HP より